

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	平和都市宣言推進事業			事業番号	20-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	市民生活部	大津 隆治	市民協働課	高梨 剛	

計 画 (Plan)

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	9	一人ひとりが大切にされるまちをつくる	
		施策	20	平和と多文化共生社会の推進	
予算事業名	平和推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	伊勢原市平和都市宣言推進事業補助金等交付要綱				
国・県の計画等			計画期間		
関連個別計画			計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	終戦から70年以上が経過し、日本の戦争の惨禍を直接語ることのできる人が少なくなっている一方、世界各地では未だに紛争が起き、核兵器の廃絶も実現されていない状況です。平和都市として、広く市民に平和意識を啓発し、継承を促し、世界平和の礎となる、互いに尊重しあえるまちづくりをしていくことが求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	各種イベントや平和史料の収集と公開等により、市民への平和意識の啓発に取り組みます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び平和活動団体				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校3年生を対象として平和作文を募集するとともに、平和作文優秀者を広島市(平和の旅)へ派遣します。 ・平和の旅の体験報告等を行う「平和のつどい」を開催し、平和意識の啓発を行います。 ・平和史料を後世に伝えるため、戦争体験インタビューの撮影や戦時中物品の収集・公開を行います。 				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	平和作文募集	実施・優秀作品の公開方法の検討	実施・優秀作品の公開	実施・優秀作品の公開	実施・優秀作品の公開
	中学生平和の旅	実施・派遣の様子の撮影、上映	実施・関連事業実施の検討	実施・関連事業の試行	実施・関連事業の試行
	平和のつどい	開催・実施方法の検討	開催	開催	開催
平和史料収集公開	収集・公開・活用方法の検討	収集・公開・活用(試行)	収集・公開・活用	収集・公開・活用	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	平和関連事業実施件数	4件 (平成29年度)	4件	4件	5件



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)				
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外			
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先	中学生ヒロシマ平和の旅派遣団
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容	平和のつどい企画運営委員会、東海大学文化社会学部広報メディア学科水島研究室
実施結果	項目	年度		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	平和作文募集	実施・優秀作品の公開方法の検討		
	中学生平和の旅	実施・派遣の様子撮影、上映		
	平和のつどい	実施・実施方法の検討		
平和史料収集公開	収集・公開・活用方法の検討			
実施した取組の内容	・平和作文応募(831人)優秀賞8点、佳作8点 ・中学生平和の旅(平和作文優秀者8人、事務局1人、随行教諭2人派遣) ・平和のつどい開催(来場・参加者数500人) ・平和史料収集(映像)伊勢原市被爆者の会を対象にドキュメンタリー映像を作成			
目標の達成状況	【指標名】	年度		
	【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平和関連事業実施件数	4件 (平成29年度)	4件		

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計(a)		762	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	内訳	国県支出金 ①	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		地方債 ②	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③	762	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	国県支出金の内容													
	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期									
		その他												
	人件費	正規職員	0.5	人	4,255	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計(b)	0.5	人	4,255	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト(a)+(b)		5,017	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	平和推進事業参加者		単位			単位			単位		
			対象数	1,331	人									
総事業費/対象数		3,769	円			円			円			円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 平和のつどい企画運営委員会において、今後の平和のつどい等で実施する新規事業について検討することができました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	<ul style="list-style-type: none"> 近隣3市(秦野市、平塚市、厚木市)と比べて、同等の事業を行っています。 東海大学と協働した事業実施により、事業内容の水準確保を図っています。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 平和のつどいにおいて実体験のインタビューを収録した映像を上映することで、参加者に平和希求の意識が啓発されています。 平和史料収集事業において、戦争体験者の記憶を映像に残すことで、平和希求の思いを次世代へ継承することに努めました。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 市民や平和活動団体、東海大学との協働により、事業に関する予算の支出を抑えています。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋戦争から70年以上が経過し、戦争体験者が高齢化するなかで、実体験を語るができる人が少なくなっています。そのため、平和史料収集事業における戦争体験者の記憶の映像を収集が急がれています。 平和意識を後世に継承していくため、「平和のつどい」等のイベントに多くの若い世代に参加を求め、関心を持ってもらう必要があります。
令和元年度の取組方針		<ul style="list-style-type: none"> 平和史料収集事業における戦争体験インタビュー映像撮影及び史料収集を進めるとともに、平和のつどいでの発表やインターネット等を活用した公開を実施していきます。 平和意識を後世に継承していくための機会として、「中学生平和の旅」に参加した卒業生にも平和のつどいの企画運営に参加してもらうよう求め、世代を超えた交流の場を作るとともに、時代に合わせた平和事業の在り方を検討していきます。 		
所管部長による総評		<ul style="list-style-type: none"> 「平和のつどい」等の平和推進事業により市民の意識高揚につながる効果的な事業の推進がなされています。 戦争体験インタビュー映像を平和史料として撮影、保存及び公開をする事業は、平和意識の次代への継承に意義あるものと考えています。 今後も若い世代に参加を求め、関心を持ってもらうよう働きかけをし、多くの市民に平和意識を継承していくことが重要です。 		